

2016 年度北極域研究推進プロジェクト公開講演会

# 北極研究と日本

—我々はなぜ北極を研究するのか—

写真提供：末吉 哲雄（国立極地研究所）

文部科学省の補助事業として2015年秋にスタートした北極域研究推進プロジェクト(ArCS)は、国内外の関係者に資するような精度の高い将来予測や環境影響評価を行うことを目的としています。では、北極域に直接面していない日本がこのような北極研究を行うことは、グローバルな観点でどのような意味を持っているのでしょうか。国際政策と科学のありかたに精通したゲストを交え、プロジェクトの統括責任者や第一線の研究者が、来場者とともに日本の北極研究の重要性について考えます。

## 基調講演

### 北極研究と日本の外交

角南 篤 ゲスト（政策研究大学院大学 副学長）

## プロジェクト概要紹介

### ArCS の目的とここまでの取り組み

榎本 浩之 サブプロジェクトディレクター（国立極地研究所 教授）

## 北極研究者による講演

### 日本の気象気候の変化と北極の温暖化

浮田 基郎 研究テーマ5 実施担当者（新潟大学自然科学系・理学部 教授）

### 北極の雪氷を汚すブラックカーボン粒子と北極温暖化

小池 真 研究テーマ3 実施責任者（国立極地研究所 客員准教授／  
東京大学理学系研究科 准教授）

### 気象・海氷予測の高精度化に必要な観測網をデザインする

猪上 淳 研究テーマ1 実施責任者（国立極地研究所 准教授）

## パネルディスカッション

### ArCS の果たす役割

司会進行 室山 哲也氏（日本放送協会 解説委員）  
パネリスト 角南 篤氏、プロジェクトディレクター、サブプロジェクトディレクター

総合司会 室山 哲也氏（日本放送協会 解説委員）

※プログラムは都合により変更する場合があります。

2017年3月18日（土）

13:00 ~ 17:00 開場 12:30

## 星陵会館

永田町駅徒歩3分 千代田区永田町 2-16-2

申込先・詳細

<http://www.arcs-pro.jp/20170318kouenkai/>

先着 230 名様  
参加無料



共同主催：  
情報・システム研究機構国立極地研究所  
海洋研究開発機構  
北海道大学

# 北極研究と日本

—我々はなぜ北極を研究するのか—

## 基調講演

### 北極研究と日本の外交 13:15 ~ 13:40

角南 篤 ゲスト (政策研究大学院大学 副学長)

北極圏の環境変化には北極圏諸国だけでなく多くの国が強い関心を抱いています。そのような中、北極域研究推進プロジェクトは北極域の利用と保全の両面において「科学技術」を我が国の「外交」に活かすことを目的としてスタートしました。半世紀以上にわたる極地研究の歴史を持つ日本に対し世界からどのような貢献が期待されているのか、また北極域の科学技術外交の一翼を担うために、本プロジェクトには何が求められているのかを紹介します。

## プロジェクト概要紹介

### ArCS の目的とここまでの取り組み 13:40 ~ 14:00

榎本 浩之 サブプロジェクトディレクター (国立極地研究所 教授)

北極域研究推進プロジェクトがスタートして1年半が経過しました。本プロジェクトでは、北極を巡る国内外の関係者に資するような精度の高い将来予測や環境影響評価を行うため、自然科学研究と人文・社会学研究の垣根を超えた取り組みが進んでいます。改めてその概要を説明するとともに、ここまでの活動内容を紹介いたします。

## 北極研究者による講演

### 日本の気象気候の変化と北極の温暖化 14:15 ~ 14:40

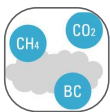
浮田 甚郎 研究テーマ5 実施担当者 (新潟大学自然科学系・理学部 教授)



近年、豪雨・大雪・寒冬などの異常気象が以前より頻繁に起きていないかと感じていませんか？ 本講演では、異常気象の例として日本の大雪・寒冬を例に取り、冬季における異常気象がどのように発現するのか、日本から遠く離れた北極の温暖化、とくに海水の減少との関連を中心にお話します。

### 北極の雪氷を汚すブラックカーボン粒子と北極温暖化 14:40 ~ 15:05

小池 真 研究テーマ3 実施責任者 (国立極地研究所 客員准教授/東京大学理学系研究科 准教授)



北極温暖化の原因物質のひとつとしてブラックカーボン (BC) 粒子が注目されていますが、測定やモデル計算の難しさから、その影響を測ることは容易ではありません。しかし最新の高精度 BC 測定器の利用や、正確な数値モデルの開発といった日本の強みを生かして、北極気候に関わる大気物質の動態とその影響を明らかにしようとする取り組みが進んでいます。BC の北極社会への影響を社会に正しく伝えるためにはどのような知見が必要なのかを紹介します。

### 気象・海氷予測の高精度化に必要な観測網をデザインする 15:05 ~ 15:30

猪上 淳 研究テーマ1 実施責任者 (国立極地研究所 准教授)



海水減少を初めとする北極域の環境変化は、北極海航路の利用や中緯度域の異常気象など、わたしたちの暮らしにも影響を及ぼします。精度の高い北極域の気象予測の重要性、予測のためにどのような観測データが必要なのか、国際的な観測網の構築に向けた取り組みとその中で日本がどのように貢献しているのかなどを、最新の研究成果を交えながら紹介します。

## パネルディスカッション

### ArCS の果たす役割 15:45 ~ 16:55

ここまでのプログラムを踏まえ、国際政策と科学のありかたに精通したゲストと本プロジェクトの統括責任者が、今後の日本の北極研究はどうなっていくべきなのか、また本プロジェクトが日本の北極研究に果たす役割とは何なのか——ハイレベルなディスカッションを繰り広げます。

司会進行 室山 哲也氏 (日本放送協会 解説委員)

パネリスト 角南 篤氏 (基調講演に同じ)

深澤 理郎 プロジェクトディレクター (国立極地研究所 特任教授/海洋研究開発機構 研究審議役)

榎本 浩之 (プロジェクト概要紹介に同じ)

河野 健 サブプロジェクトディレクター (海洋研究開発機構 北極環境変動総合研究センター長)

齊藤 誠一 サブプロジェクトディレクター (北海道大学 北極域研究センター長)

※プログラムは都合により変更する場合があります。



## 星陵会館 永田町駅徒歩3分/千代田区永田町2-16-2

● 申込先・詳細 <http://www.arcs-pro.jp/20170318kouenkai/>

● お問い合わせ先 情報・システム研究機構 国立極地研究所 国際北極環境研究センター 企画・情報チーム e-mail: arcs@nipr.ac.jp TEL: 042-512-0915

